

## VoIP 無線の運用についての誤解

JJ1SXA 池

今や、インターネット社会、携帯電話と共に、車社会と同じレベルになったようです、良し悪しは別にして、いやでも避けて通れなくなりました。

その流れは、アマチュア無線にも広がり、インターネットは切っても切れない関係になってきたようで、**VoIP** 無線も食わず嫌いではられないのではないのでしょうか？

**VoIP** 無線の運用について、過去にも何度か触れてきましたが、説明不足もあったようで、まだ誤解があるようです、そんなわけで、分かっている方には申し訳ありませんが、初歩の初歩について、私の知っている範囲で書いてみます。

代表的な **VoIP** 無線と言えば、**eQSO**、**Wires**、**echolink** それにIRLPですが、IRLPは **OS** がリナックスのみですので省いて、前の三つについて述べます。

先ず最初に、**eQSO**、**echolink** は、パソコンにインターフェースを介して無線機につないで運用するノード局と、単にパソコンだけで手軽に運用するユーザーモードでの運用方式があります、このことを誤解している局が多いようです。

最初は、ユーザーモードで経験してもらえば良いと思います、その後でノード局を開設したくなったら、インターフェースを自作するか市販品を購入して無線機と接続すれば良いのです、ソフトをダウンロード、インストールして、とりあえずパソコンだけで運用できるのです。(ソフトダウンロードのページは、240ホームページにリンクあり)

**eQSO** は、2005年6月4日以降は登録制になり、メールアドレスとコールサインが正式なものと判定されると、パスワードとレジスターキーが与えられますので、これで全て **OK**、後はパソコンにヘッドセットをつなぐだけ(ルーターの設定はありません)。

毎週月曜日の240のロールコール時は、私のところで無線にリンクしています、パソコンから、240に **QRV** できますし、無線で話せば、**eQSO** の私のルーム「**TWO-FORTY**」にアクセスしている局のパソコンに届きます。

**echolink** は、正式なコールサインが確認されるとノードナンバーが与えられます、後はルーターを使っている場合は、**UDP** ポートの **5198~5199** を開放(セキュリティソフトでファイアウォールをかけている場合は、同様にポートを開放)、他にも色々な機能が使えますが、設定が面倒なので省略、ここまでで運用できます。

こちらも、パソコンだけで運用する「ユーザーモード」と、パソコンにインターフェースを介して無線機をつないで、ノード局としての「シスオペモード」での運用方式があります、最初は、「ユーザーモード」で運用し、後で、無線機をつなぐノード局を開設すれば良いと思います。

交信の相手が、無線リンク局なら、こちらはパソコンからでも、相手は無線機からです、相手が **DX** の局なら、こちらの声は **DX** に流れます。

**eQSO**、**echolink** 共に、コールサインの確認には、[コールサイン@jarl.com](mailto:call@jarl.com) のメール

アドレスがあれば早いのですが、無くても、免許状をスキャナーで読み取り、画像ファイルをメール添付ファイルで送れば良いです。

**Wires** も、スタンダード社の **Wires** コントローラー・**HRI-100** が無ければ出来ないのでは無いかと思っている局がいるようですが、ノード局を開設するのであれば、全く関係ありません、無線機があれば良いのです。

手軽な運用経験は、**51.44MHz** に周波数を合わせてワッチしてみてください、時間帯によっては何も聞こえ無いかも知れませんが、昼間でも結構聞こえる時があります、**CQ** が聞こえたら、お声がけして普通の **QSO** をして下さい。

**51.44MHz** で運用しているのは、私の **5037** ノードです、トーンスケルチはかかっていません、ここで運用する時は **DTMF** 機能は必要有りません、普通の無線機があればよいのです、普段のように **QSO** できます。

**5037** ノードは、ほとんど、**FM** のメインチャンネルのような感じの、**CQ** ルームに接続しています、全国の多くのノード局が接続しているので、色々の所から固定局、モバイル局の **CQ** が出ます、ワッチしてみてください、勿論お声がけは構いません。

**Wires** の運用についての注意事項としては、ブレイク局や管理局の操作のためブレイクタイムをとる(**240** でやっているように、一声出した後 **PTT** を一旦離す)、頭切れ防止のため、**PTT** を押したまま一寸間を置いて話し始める、**Wires** 経由であることをインフォメーションする(こちらは自局コールサイン **Wires** 経由・・・というように)、後は、**CQ** ルームですので、独占にならないよう、あまり長い時間(最長でも約 **20** 分以内)は遠慮する、こんなことが慣習で推奨されていますので守りましょう。

以上、簡単な説明で分かり難いところもあるでしょうが、誤解は解けたことと思います、インターフェースで無線機につながなくても良いのです、普通の無線ですから難しく考えず経験してもらいたいと思います、その後で、ノード局の開設とか、**DTMF** 機能を使つての運用に進めば良いのです、食わず嫌いは卒業して取り組んでみましょう、貴局のアマチュア無線の世界が更に幅を広げることでしょ。

ちなみに、私は、**eQSO**、**Wires**、**echolink** の3システムとも、無線機につないだノード局になっていますが、**eQSO**、**echolink** は普段は、無線リンクを切ってユーザーモードにしていて、必要に応じ無線リンクにします、**Wires** は、常時オンにして、ほとんど **CQ** ルームに接続しています。

現在、私のところでは、リモートシャックシステムをゲストオペ運用に使ってもらったり、携帯電話によるフォーンパッチ、クロスバンドコンタクト、**Wires** を利用するクロスバンドレピーター等の実験運用をしています、**240** 各局に役立つことがあると思いますので、スカイプやリモートシャック、**eQSO**、**Wires**、**echolink** 等の、それぞれの特性を知り、運用に慣れておいていただくと、これらの利用、活用がスムーズにできるのでは無いかと思います、ぜひお願いしたいものです。